



ゼオンの海外拠点 －ゼオン化成メキシコ社編－



ゼオン化成メキシコ社 (Zeon Kasei Mexico S.A.de C.V.) は、メキシコ合衆国サンルイスポトシ市のコリナス・サンルイス工業団地に2015年7月に設立され、工場建設を経て2017年6月に開所式を迎え塩化ビニル樹脂を原料とするパウダースラッシュ材料の生産に取り組んでおります。

生産工場のあるコリナス・サンルイス工業団地は、首都メキシコシティの北北西500キロに位置し、メキシコ国内の日系、欧米系の自動車メーカーを始め、北米との交通アクセスに優れ、充実したインフラ環境を整え、北米自動車業界のサプライチェーンの一角を

なしています。

ゼオン化成メキシコ社の生産するパウダースラッシュ材料は、意匠性・成型加工性に優れ、インビジブル・エアバッグ・システム用表皮材料として大きく注目されており、国内外の自動車メーカーに採用され、自動車内装の高級化に伴い、今後の大きな伸びが期待されております。ゼオン化成メキシコ社の現在の生産能力は年産1,200トン。国内の茨城工場、中国の常熟工場に続く第三の生産拠点として、また、今後の生産量の拡大とグローバルサプライチェーンの構築に注力してまいります。

日本ゼオン株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-2 (新丸の内センタービル)
〒100-8246 電話03 (3216) 1772



ZEON
日本ゼオン株式会社
証券コード 4205

株主のみなさまへ

第95期 年度報告書

2019年4月1日 ▶ 2020年3月31日

高機能材料の最高益更新を追い風に、 グローバルな生産・販売体制の最適化と 新製品、新事業の開発加速に 取り組んでまいります。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第95期(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の報告書をお届けいたします。
株主のみなさまには引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長 田中公章

Q 2020年3月期の連結業績をどのように分析・評価していますか。

A 外部環境の悪化によりやや低調な結果となりましたが、
高機能樹脂などが伸長した高機能材料事業は過去最高益を更新しました。

連結財務ハイライト

■売上高	3,219億円	前期比 4.6%減	↓
■経常利益	287億円	前期比 20.9%減	↓
■親会社株主に帰属する当期純利益	202億円	前期比 9.4%増	↑

2020年3月期の経営環境は、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速などに加え、期末にかけては新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が経済活動に悪影響を及ぼすなど、先行き不透明な状況で推移しました。こうしたなか、ゼオングループはエラストマー素材事業においては採算性の向上とグローバル展開の強化に努め、高機能材料事業では付加価値の高い新製品の開発に注力しました。

この結果、当期の業績は、エラストマー素材事業が世界経済の減速と市況軟化の影響で減収減益となったことを受け、連結売上高、連結営業利益、連結経常利益が前期比で減少しました。一方、減損等の特別損失が減少したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比9.4%の増益となりました。年間配当金は1株あたり21円と、10期連続の増配とさせていただきます。

事業セグメントの状況を概観すると、エラストマー素材事業は、前述の通り経済減速等の影響から売上高、営業利益ともに前期を下回りました。一方、高機能材料事業は、光学樹脂、光学フィルム、電池材料の販売が堅調に推移したことから増収増益となり、売上高、営業利益ともに過去最高を達成しました。

Q グローバル戦略の進捗状況と今後の展開方針をお教えてください。

A アクリルゴム新工場(タイ)の建設や医療機器分野に特化した海外ベンチャーへの出資など、グローバル展開のさらなる強化に努めています。

エラストマー素材事業では、タイのアクリルゴム製造工場の建設が大詰めを迎えています。完工後は日米3拠点と合わせて年産22,000トン体制が確立することになり、安定供給により世界の自動車産業を確実に支えていきたいと考えます。またシンガポールでは、2017年に営業を開始したアジア技術サポートラボラトリー(ATSL)を中核拠点に、成長著しいASEAN・インド域の特殊ゴム市場に最適なソリューションを発信・提案しています。

北米においては、2017年、IT産業の集積地であるシリコンバレーに高機能樹脂や光学フィルム、電池材料などを手掛けるゼオン・スペシャリティ・マテリアルズ(ZSM)社を設立しました。現在はZSM社を中核拠点に、綿密なマーケティングに基づいて市場ニーズへの的確な対応を進めています。また、本年4月には医療機器分野への投資に特化した海外ベンチャーファンドへの出資を決定。先端医療技術の収集やベンチャー企業との協業案件の発掘に取り組んでまいります。

Q 新型コロナウイルスへの対応策をお聞かせください。

A 「従業員やその家族等の健康・安全の確保」「安定的な資金繰り」「サプライチェーンの維持」を中心に、迅速かつ的確な対応策を実行しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界各国の経済・社会は2008年の世界金融危機を上回る重大な危機に直面しています。日本は欧米諸国より感染者・死亡者ともに少ないとはいえ、今に至るも完全な収束が見通せない状態が続いています。

ゼオンでは本年1月より「従業員やその家族等の健康・安全の確保」「安定的な資金繰り」「サプライチェーンの維持」の3点を中心に迅速かつ的確な対応策を実施してきました。従業員の安全確保については、在宅勤務・時差出勤の促進や出張の禁止・制限など、社会の感染拡大防止にも貢献する取り組みを積極的に進めております。資金繰りに関しては、現状不安はないものの今後の流動性リスクの顕在化に備えて、既存のCP発行枠に加え500億円のコミットメントラインを設定することとしました。サプライチェーンの維持については、国内外の製造拠点において感染防止策を徹底した上で、ほぼ正常通りの生産活動を維持しているほか、海外の営業拠点でも在宅勤務を組み込んだ機動的な態勢でお取引先のニーズに応えています。

急速に悪化する世界経済の下での売上高の激減など、今後、ゼオングループを取り巻く経営環境も大変厳しくなるものと懸念されます。ゼオンはこの環境の激変に対し、在庫削減やコスト削減をはじめとした緊急対策をグループ一丸となって実施し、対処してまいります。



ゼオンの光学フィルム事業の強み

ゼオンの独自技術の結晶ともいえる光学フィルム「ZeonorFilm®」は、テレビやスマートフォンに使われるディスプレイ材料として、以下の強みで市場から高い評価を受けています。

原料の強み

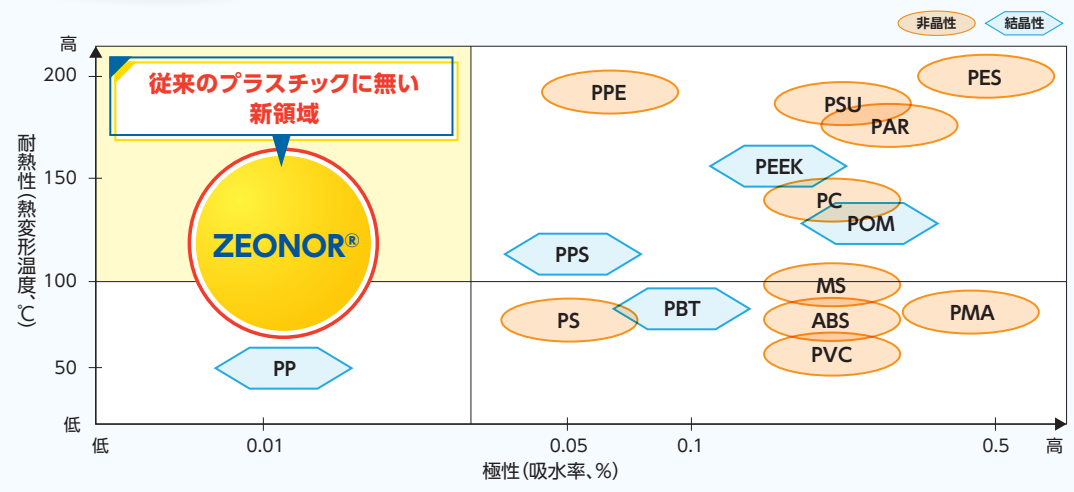
GPI法から得られるジシクロペンタジエン

ゼオンのC₅事業の源泉であるモノマー抽出技術「GPI(ゼオン・プロセス・オブ・イソブレン)法」。抽出蒸留によって、C₅留分からシクロオレフィンポリマー(COP)の原料となる高純度のジシクロペンタジエンを自社内で生産しています。

樹脂の強み

樹脂自体の持つ特徴：耐熱性、耐湿性、加工性

「ZeonorFilm®」の素材として使われるCOP「ZEONOR®」は、耐熱性を有しながら耐湿性に極めて優れるというユニークな熱可塑性プラスチックです。これらの特長が、ディスプレイ材料に欠かせない高い寸法安定性の実現に寄与しています。



加工技術の強み

溶融押出 + 延伸技術

ゼオンはCOPをフィルム化する「溶融押出法」により、生産性向上と設備のコンパクト化を実現しながら、優れた厚み精度を達成しました。これは当社独自の加工技術であり、さらに、当社が開発した「逐次2軸延伸」、「斜め延伸」等の延伸技術は、いずれも業界初のプロセスとして、膜厚や分子配向、光学物性等の制御を可能にしています。

一貫生産の強み

ポリマー設計～製造～加工までを一貫生産

ポリマー設計から加工製品まで一貫した設計思想を持ち、研究所と生産工場を直結して高い技術力を維持することで、市場の要求に的確に応えた製品を生み出しています。原料メーカーとしてのポジションを存分に活かした、ゼオンならではの強みです。



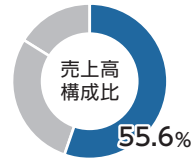
売上高

売上高の推移

概要

会社基盤を支える事業

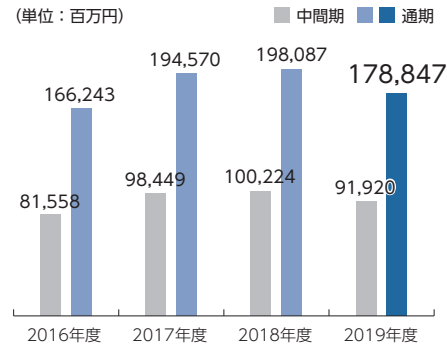
エラストマー素材
事業部門



- 合成ゴム
- 合成ラテックス
- 化成品

1,788億47百万円

9.7%
(前期比)



合成ゴム

世界経済減速の影響を受け自動車産業向けを含む一般工業品用途の需要が弱く、国内販売・輸出・海外子会社とも低調に推移した結果、全体の売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

合成ラテックス

経済減速の影響による化粧品材料や一般工業品用途などの需要減に加え、原料動向に連動した手袋用途の販売価格下落により、全体の売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

化成品

主力の水島工場における定期検査の実施に伴い生産量見合いの出荷を継続したことに加え、アジア市況が軟化したことも重なり、全体の売上高、営業利益ともに前期を下回りました。

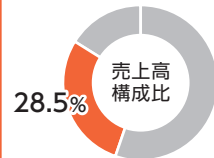
● 当事業部門全体の売上高は1,788億47百万円(前期比9.7%減)、営業利益は96億42百万円(同45.5%減)となりました。



製品用途例

新規展開を中心とする事業

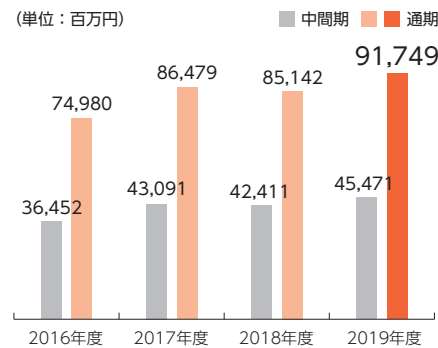
高機能材料
事業部門



- 高機能樹脂
- 高機能ケミカル
- 医療器材

917億49百万円

7.8%
(前期比)



高機能樹脂

光学樹脂、光学フィルムともに販売が堅調に推移しました。この結果、高機能樹脂全体の売上高、営業利益ともに前期を上回りました。

高機能ケミカル

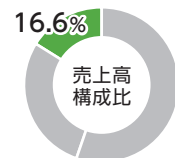
化学品およびトナーは売上高、営業利益ともに前期を下回りましたが、電池材料は販売が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前期を上回りました。電子材料は、売上高は前期を上回りましたが、営業利益は前期を下回りました。この結果、高機能ケミカル全体の売上高は前期を上回りましたが、営業利益は前期を下回りました。

● 当事業部門全体の売上高は917億49百万円(前期比7.8%増)、営業利益は173億11百万円(同7.4%増)となりました。



製品用途例

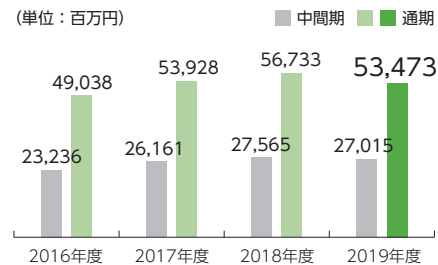
その他の事業部門



- RIM 配合液・成形品
- 塗料ほか

534億73百万円

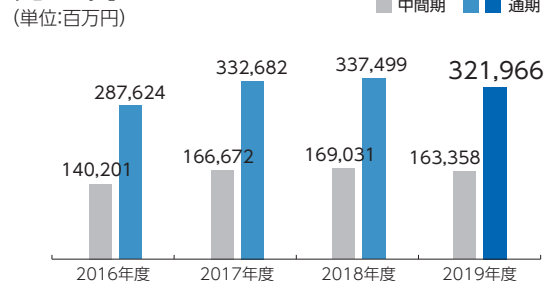
5.7%
(前期比)



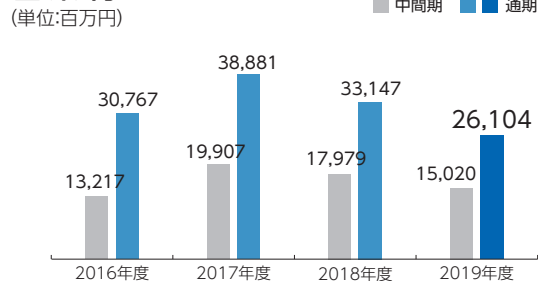
● 子会社の商事部門等の売上高が前期を下回りました。この結果、全体の売上高は534億73百万円(前期比5.7%減)、営業利益は20億98百万円(同24.7%減)となりました。



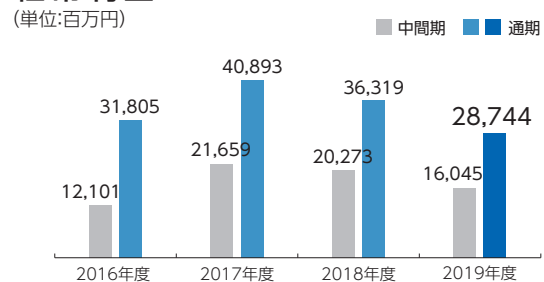
売上高



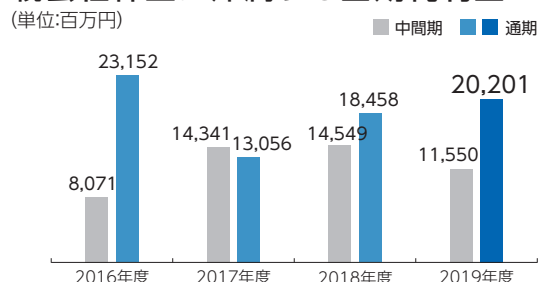
営業利益



経常利益



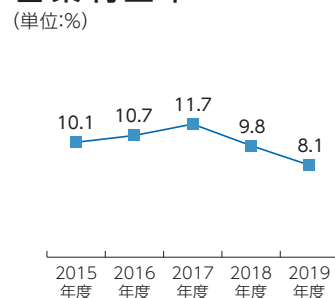
親会社株主に帰属する当期純利益



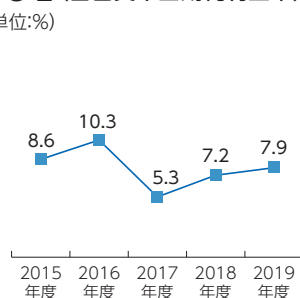
POINT

・世界経済の減速等の影響を受けエラストマー素材事業が振るわず、売上高、営業利益および経常利益は前期を下回りました。
 ・減損損失額が前期より減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は前期を上回りました。

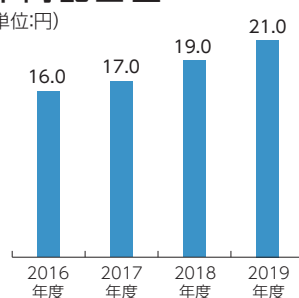
営業利益率*



ROE (自己資本当期純利益率)*

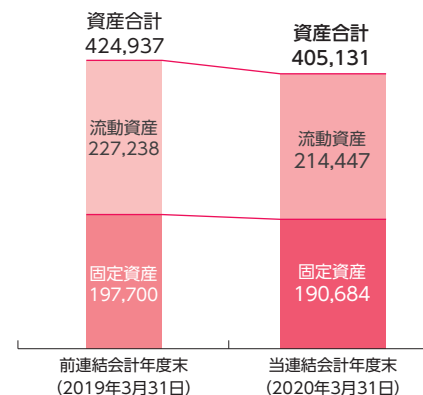


年間配当金



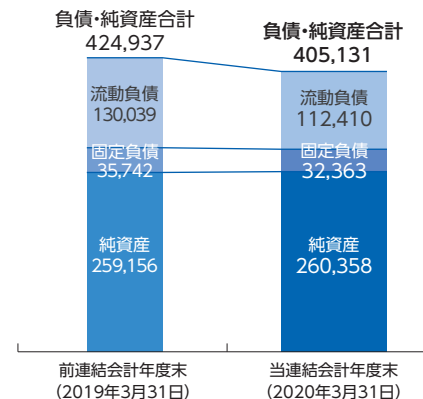
*営業利益率およびROE(自己資本当期純利益率)につきましては、各年度の通期実績値の推移をお示しております。

連結貸借対照表 (単位:百万円)



POINT

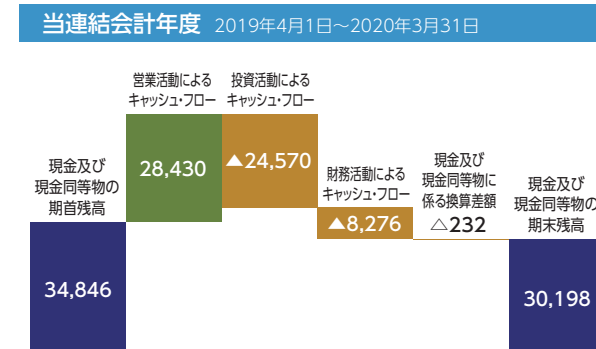
有形固定資産などが増加しましたが、売掛金、投資有価証券などが減少したことにより、資産合計は前年度末に比べて減少しました。



POINT

借入金の返済を進めたことに加え、買掛金、繰延税金負債なども減少したことにより、負債合計は前年度末に比べて減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは9月30日
基準日	毎年3月31日 (その他臨時に必要があるときは、あらかじめ公告します。)
公告方法	電子公告 http://www.zeon.co.jp/ (ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。)
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-8507) 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人であるみずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。

■ 会社の概要 (2020年3月31日現在)

商号 日本ゼオン株式会社
(ZEON CORPORATION)
設立 1950年4月12日
資本金 242億1千1百万円
本社 〒100-8246
東京都千代田区丸の内1-6-2
新丸の内センタービル
電話 03(3216)1772
従業員 3,462名(連結)

■ 役員 (2020年6月26日現在)

取締役社長 田中 公章 常務執行役員 豊嶋 哲也
取締役 平川 宏之(☆) 常務執行役員 曾根 芳之
取締役 西嶋 徹(☆) 執行役員 渡辺 えりさ
取締役 松浦 一慶(*) 執行役員 小瀬 智之
取締役 伊藤 晴夫 執行役員 渡辺 誠
取締役 北畑 隆生 執行役員 川中 孝文
取締役 南雲 忠信 執行役員 江口 勉
常勤監査役 古谷 岳夫 執行役員 富永 哲
常勤監査役 平川 慎一 執行役員 大井 喜信
監査役 郡 昭夫 執行役員 小西 裕一郎
監査役 西島 信竹
監査役 木村 博紀

(☆) の取締役は常務執行役員を兼務しております。
(*) の取締役は執行役員を兼務しております。

■ 株式の状況 (2020年3月31日現在)

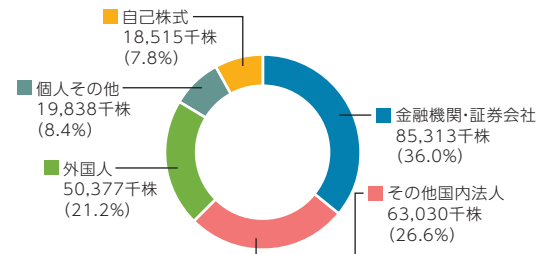
発行可能株式総数 800,000,000株
発行済株式の総数 237,075,556株
株主数 9,284名(前年度末比798名減)

大株主

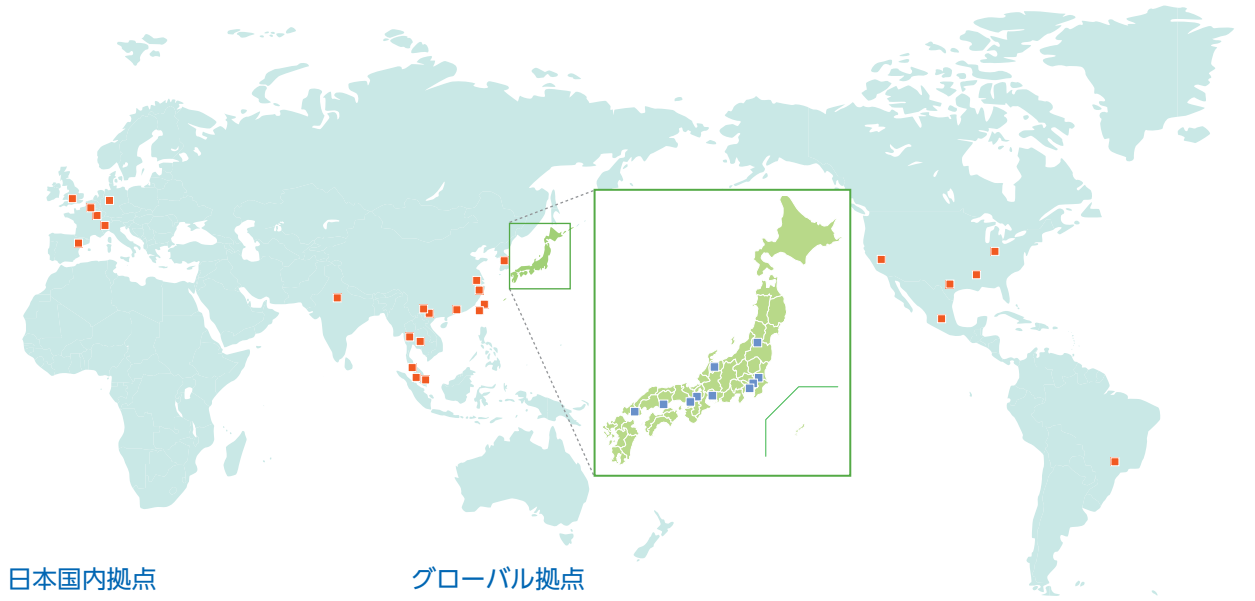
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
横浜ゴム株式会社	22,682	10.38
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,922	5.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,806	4.49
株式会社みずほ銀行	9,600	4.39
全国共済農業協同組合連合会	7,700	3.52
朝日生命保険相互会社	7,679	3.51
旭化成株式会社	6,438	2.95
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	5,921	2.71
農林中央金庫	4,000	1.83
日本ゼオン取引先持株会	3,783	1.73

(注) 1.持株数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2.当社は自己株式18,515千株を保有しておりますが、上記の表には記載していません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



■ ゼオングループの主要拠点



日本国内拠点

- 日本ゼオン株式会社
 - 本社
 - 総合開発センター
 - 高岡工場
 - 川崎工場
 - 徳山工場
 - 水島工場
 - 大阪事務所
 - 名古屋事務所
- 株式会社オプテス
- ゼオンエフアンドビー株式会社
- ゼオンオプトバイオラボ株式会社
- ゼオン化成株式会社
- ゼオンケミカルズ米沢株式会社
- ゼオンナノテクノロジー株式会社
- ゼオンノース株式会社
- ゼオンポリミクス株式会社
- ゼオンメディカル株式会社
- ゼオン山口株式会社
- 東京材料株式会社
- 株式会社トウベ
- RIMTEC株式会社
- ZSエラストマー株式会社
- 岡山プラジエン株式会社
- ジスイنفotechノ株式会社

グローバル拠点

アジア・オセアニア

- 瑞翁(上海)管理有限公司
- 瑞翁貿易(上海)有限公司
- 瑞翁化工(上海)有限公司
- 瑞竹化工(上海)有限公司
- 瑞翁化工(広州)有限公司
- 瑞翁(広州)医療器械有限公司
- 瑞翁化成塑料(常熟)有限公司
- 泉瑞股份有限公司
- 台湾瑞翁股份有限公司
- Zeon Korea Co., Ltd.
- 濟新株式会社
- Zeon Chemicals Singapore Pte. Ltd
- Zeon Asia Pte. Ltd
 - Asia Technical Support Laboratory
- Zeon Asia Malaysia Sdn. Bhd.
- Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd.
- Zeon Advanced Polymix Co., Ltd.
- Zeon Manufacturing Vietnam Co., Ltd.
- Zeon Research Vietnam Co., Ltd.
- Zeon India Private Limited

欧州

- Zeon Europe GmbH
 - Zeon Europe GmbH - Branch in France
 - Zeon Europe GmbH - Branch in Spain
 - Zeon Europe GmbH - Branch in Italy
 - Zeon Europe GmbH - Branch in U.K.
- Telene S.A.S.

北米・中南米

- Zeon Chemicals L.P.
 - Zeon Chemicals L.P. R&D Center
 - Zeon Chemicals L.P. Kentucky Plant
 - Zeon Chemicals L.P. Mississippi Plant
 - Zeon Chemicals L.P. Texas Plant
- Zeon Specialty Materials Inc.
- Zeon do Brasil Ltda.
- Zeon Kasei Mexico S.A. de C.V.